原田さん家の板井原大根の間引き

訪問日　平成 27 年　9月5日（土）

原田さん家の大根畑です。８月に種まきをした大根はもう、大きく成長しています。

原田さんご夫妻に間引きの行い方を教わりました。間隔を開ければ、スッキリとした大根畑になります。

板井原大根の根っこは一般の大根とは違い、紫色です。葉っぱにも小さなとげがあり、素手で扱うと痛痒くなります。以前は焼畑でこれを栽培していました。

板井原大根の育成の仕方と焼畑の歴史についての説明を受けています。次回はいよいよ収穫です。

原田さん家の板井原大根の間引き

訪問日　平成 27 年　9月5日（土）

集落の公民館の横の罠にかかってしまった鹿です。集落に向かう途中や帰る途中にトンネル付近でしばしば見かけられるようです。

この二つの道具は鹿の解体に使用します。右の道具は頭を叩き、軽く脳震盪を起こすようにします。脳震盪が起こって気絶したら痛みを与えないように、左の包丁で解体していきます。この鹿の運命は当然ながら　チーンです。

大根畑の栗の木

原田さん家の大根畑の近くで立っている栗の木です。一つ一つの栗の実が大きく成っています。

原田さん家の板井原大根の間引き

訪問日　平成 27 年　9月5日（土）

（感想）

僕は、板井原の初めての体験で、とても自然のあるところで板井原大根の間引きに、慎重に取り組みました。とくに間引きで大根の長さを間違えずにしました。初めてのボランティアとしてしっかりと頑張りました。これからも地域の盛り上げに貢献したいです。（Ｙ・Ｋ）

土曜の朝、僕は、皆と一緒に車で板井原集落に行き、初めてボランティア活動をしました。原田さんご夫妻に会いました。挨拶をしている時、あげもちとお茶をいただき、おいしかったです。早速、作業に入って、大根の間引きをしました。広い畑なので小さい方の大根は大変でした。（Ｔ・Ｒ）

間引きの仕方はテレビや親から聞いたことがあるので知っていましたが、実際するのは初めてで、見極めるのがとても難しかったですが、いい体験ができました。（Ｍ・Ｔ）

板井原大根

何百年も続いた焼畑農法を現在では平地で伝統を守る人がいる。種まきから３１日目、間引きにお助け生徒が５名。ばらまきのため、足を踏み入れる畝もなく、一株に大根が何枚かの葉をつけ茂っている。約１５センチメートル間隔で間引くように言われたが、どれを抜いて残せばよいのか迷い当惑する。５名は無言のままで、夢中になり見る見るうちに、板井原大根の間引き完了。太陽の日差しいっぱい秋風にゆれ板井原大根達、収穫まで元気に成長して。楽しみにしています。（Ｍ・Ｔ）

私は、久しぶりに大根の間引きを行いました。初めは原田さんと一緒に間引きをさせて頂いたのですが、徐々に行い方を思い出して、少しずつだけど一人でもできました。一般の大根とは違い、ばら撒きで栽培を行うことがわかりました。将来家の畑を継ぐので参考になりました。次は花かご祭りの準備の手伝いをするので残り数ヶ月ですが集落の手伝いを頑張ります。（Ｍ・Ｎ）

板井原大根は野生の趣を持った大根です。根っこは紫色、葉っぱは栽培種では経験したことのないちくちく感があり、素手で作業をしたので２，３日手のかゆみが抜けませんでした。本来は昭和３０年代まで近くの山林を焼いてできた畑（「かりょう」といいます）で栽培していたもので、他の品種と交配しないように厳重に管理されて、現在に伝えられてきています。焼いた直後の畑では灰と熱により肥料や病害虫の心配がないため、無肥料、無農薬、無除草で栽培できたとのことです。本来なら無農薬で育てたいとのことでしたが、今回は小さなコガネムシがついて葉の食害があるため、止む無く農薬を散布したとのことでした。焼畑の力恐るべし。（顧問）